

来年度の山部会活動方針（案）

■活動テーマ①：山村再生担い手づくり事例集

運営方針から見る活動内容

- 事例集やガイドラインは更新していくことを前提として、できる範囲で行い、その活用を通じて得られた知見に基づき、柔軟に見直しを行っていく。
- 山部会では、山のことを知ってもらうため、山村再生担い手づくり事例集の作成を、流域圏（特に市民が中心）で一体的に行っていることを提案する。また、ここで実施するヒアリングを通じた交流のしつこみを川部会や海部会にも提案したい。

WG・振り返りシートから見る活動提案

- 山村再生事例集の対象を増やし、流域再生担い手事例集としてとりまとめられるとよい。
- 各団体の所在地・活動範囲などがわかる資料があるとよい。
- 事例集の取材先同士が集まれる仕組みがあるとよい。
- 昨年度、取材したところを再び訪れて、追加取材という形式をとっても面白い。別の観点から取材することで、新たな情報収集が可能となり有意義と思う。
- 取材先に山にかかわりのある川の団体や海の団体を含めることも考えられないか。その方が、川・海のメンバーが行きやすいのではないか。

《来年度の活動内容（例示）》

- ① 既取材済み団体の活動紹介の深度化
事例集の作成過程で取材した団体への再取材など
- ② 山村再生担い手同士のつながりの形成
取材した団体（取材先）同士の交流の場の企画など
- ③ 山村再生に関わる取組み活動の範囲の見える化と森づくり・木づかいとの連携
事例集の取材先の所在地等を反映したマップの作成など
- ④ 事例集のPR方法の検討
作成した事例集のPRの実施など

来年度の活動方針（案）

- 2013、2014 年度に引き続き、事例集の作成を行う。川や海の活動団体も取材対象とする。
- 3 ヶ年の取材団体を地域や活動の種類によって検索し、取材内容を閲覧することができる地図を作成し、ホームページ（クリックして団体の活動情報を取得できる等）にアップする。

■活動テーマ②：山村ミーティング

運営方針から見る活動内容

- 旭、根羽、恵那の3地区で木の駅プロジェクト実行委員会が行われており、この活動を山村ミーティングとして位置づけ、連携、協働していく。

WG・振り返りシートから見る活動提案

- 矢作川流域圏の山村で活動している若手同士、課題や悩みについて相談し合える仕組みを作ればよい。
- 既存の木の駅プロジェクト等の活動と連携しながら進めていくことがよい。
- 岡崎森林組合の職員が演奏する「岡森フォレストーズ」のライブを矢作川流域圏に周知して山の仲間を集めるのも一つの手として考えられるので企画について検討したい。
- 山村に関わるイベントに対して、矢作川流域圏懇談会は、協賛・共催など、活動をバックアップする基盤のようなかたちで関わればよい。矢作川流域圏の中の他の団体とのつながりを深めていくことが重要である。

《来年度の活動内容（例示）》

- 既存の他団体の行事と矢作川流域圏懇談会との共催・企画
矢作川きこり祭りの実施など

来年度の活動方針（案）

- 木の駅が、根羽、恵那、豊田それぞれで立ち上がり、岡崎市額田町でも準備が始まった。これらと連携しながら、新たに「矢作川きこり祭り」（仮称）の開催の準備に入る。
- 長老ベテランの技、アイターン若者のパワー、森林ボランティアの心意気を思いぞんぶん発揮できる「お祭り」で、流域のきこりが集い、汗を流し、杯を酌み交わし、語り合う場づくりにする。

■活動テーマ③：森づくりガイドライン

運営方針から見る活動内容

- 流域圏の森づくりのカタログを作成し、森林所有者や行政、森林組合等の情報源として活用してもらおうと同時に、森づくりにおける現状と課題、その解決手法に関して、川や海のメンバーへの説明資料とする。
- 今後、矢作川流域圏の川や海に配慮した木材生産をするモデル林、スギ・ヒノキ人工林を針広混交林や広葉樹林へ転換していくモデル林について、流域の4地区にそれぞれ設定していくことを検討する。

WG・振り返りシートから見る活動提案

- 来年度は流域圏の首長による討論など源流サミットを開催できればよい
- ガイドラインには、間伐の効果が時系列で理解できるものがあるとよい。
- よい例以外にも、典型的な放置林などがあると分かりやすい。
- 森を知らない人にとっては、地域にある巨木なども見せられるとよい。
- 山村再生担い手事例集でもマップをつくるので、森づくりのものと将来的には一緒に作っていければよい。

《来年度の活動内容（例示）》

- ① **流域圏一体となった森づくりの課題・解決手法に関する情報共有**
矢作川流域圏の特徴的な森づくりを整理したガイドラインづくりなど
- ② **山部会他のWGとの連携**
山村再生担い手事例集・木ずかいガイドラインとの連携など
- ③ **矢作川流域圏の特徴的な森づくりに関連する情報を収集したモデル林の設置検討**
特徴的な森づくりを発展させた流域圏における試験林の設置など

来年度の活動方針（案）

- 流域圏の森の統計的情報、代表的、特徴的な森や樹木のリストを地図上に落とした資料を作成し、森づくりにおける現状と課題、解決手法を川部会、海部会へ説明し、理解していただくための基礎資料とすると同時に、森林所有者、行政、森林組合、市民の情報共有のために活用していただく。
- 今後、矢作川流域圏の川や海に配慮した木材生産を目指すモデル林、スギ・ヒノキ人工林を針広混交林や広葉樹林へ転換していくモデル林、森林の水源涵養機能を科学的に明らかにすることを目指した試験林等について、流域の4地区にそれぞれ設定していくことを検討する。

■活動テーマ④：木づかいガイドライン

運営方針から見る活動内容	WG・振り返りシートから見る活動提案
<p>○すでにアタック表に掲載できる既存の活動や、これから実践できる活動を加えたより現実的なアタック表とするため、既に木づかい推進に取り組まれている実績のあるスタッフや、関連するスタッフを新たに探して部会に参加してもらう。</p> <p>○新スタッフを加え、平成 25 年度のライフステージアタック表(案)をベースに、すでに取り組まれている「とよた森林学校」等の活動を表に落とし込んでみることで、広範囲の木づかい推進活動をアタック表の視点から見える化してみる。</p> <p>○この時点で分析を行い、どの部分が充実していて、どの部分が弱いのか把握し、アタック表を再整理してみる。</p> <p>○また、ここで明らかになった先進的な取り組みを数回、部会として体験してみる。</p> <p>○この先進的な取り組みが他地区へも比較的簡単に導入することができれば、それをアタック表に加えて見える化する。</p> <p>○これにより、現時点での木づかいガイドラインの原形を作成する。</p> <p>○核となる市民活動(提案されたものも含める)ごとにプロジェクトチームを結成し、行政・業界・研究者の上手な連携の形態を提案、あるいは構築できるように検討・働きかけを行い(どの程度までできるかは検討)ながらアタック表に掲載して、皆が現実的な取り組みとして行動できるように段階的に木づかいガイドラインの作成を進める。</p>	<p>○木の駅に関して、個人の木の利用、簡易製材・ちょっとした木工の製作。ベンチ、小屋みたいなものを作って山の中に拠点を作るイメージはある。</p> <p>○木工教室みたいなものを開催できないか。子供用の本棚や大人向けの食器棚などを作って家で使えるとよい。</p> <p>○豊田のまちなかは殺風景ともいわれており、まちなかに緑や木の物を増やしたい一方で、自然としての矢作川を売り込むことも面白い。例えばモデルポケットパークなんかもおもしろい</p> <p>○間伐材を使った橋りょうなどの見学会を木曾地域で経験したことがある。林野庁や地元自治体などが企画した林業ツアーは、木づかいという面で、大変有意義であったので、そのようなイベントも行えたらよい。</p> <p>○地元全体で盛り上げられるような仕掛けがあるとよい。例えば、地元の木材をフリーマーケットのようなかたちで出品者、購入者が交流できると面白い。</p> <p>○木工業者、製材所、建築家等の連携が重要となる。</p> <p>○木づかいガイドライン作成を通じ、山に金を戻す仕組みを見える化することが大切。流域圏でスギダラをやる意味や、木づかい推進に伴う新たな業の検討には、安心の連鎖、生活の質を高めること等も含めて考えていくことが重要。</p>

《来年度の活動内容(例示)》

- ① **木づかいガイドラインの周知・PR手法の検討**
木づかいガイドライン掲載の取り組みに対する継続した提案・モニター・場所の募集など
- ② **スギダラどこでもシリーズの実践**
スギダラ製品の製作/販売製作者の募集など
- ③ **スギダラキャラバンの実践**
木づかいイベントの開催企画など

来年度の活動方針(案)

- ①平成 26 年度に作成した提案型「木づかいガイドライン さあ~しよう」の原案を基本に、各提

案項目について提案が可能なものから順次提案者へ原稿を依頼して作成業務を行う

- ②「木づかいガイドライン」は、こうした方法で順次提案者に作成依頼を図りながら、その内容を増やしていく
- ③並行して開催する「木づかいライブ・スギダラキャラバン」は、「木づかい」推進のリーダー役を務める根羽村森林組合がまとめ役となって、里山市民グループ・地元工務店・地域の団体等と連携しながら、流域内の様々なイベントとジョイントを図り、地域に活力を生み出す元気な人の輪を育成する
- ④「木づかいライブ・スギダラキャラバン」開催を通して、「森づくりガイドライン・木づかいガイドライン」等の森づくりと木づかい情報を発信して、矢作川流域の森林資源・木づかい推進活動を紹介しながら、森や木づかいのファンを増やしていく
- ⑤同時に、木育アイテムや「どこでもシリーズ」等スギダラ商品の開発を図りながら、矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を広く市民に提案して、その普及と定着を図る
- ⑥こうした楽しい「木のある暮らし」の普及を基本として、市民自らのアイデアと行動で身近なあらゆる生活空間をスギダラケにする市民活動を生み出し、「人生を楽しみ愛する家族と共に幸せに暮らす森や木とそれを育む矢作川の流れと共に生きるライフスタイル 矢作川ディズ」を確立する